

# Volume II — Children's Songs & Chorus



音楽科

授業改善のための

デジタルコンテンツ

【誰にもできるステップアップ教材】

わらべうた編 & コーラス編 Vol. 2

## Contents

● 発刊にあたって	... 1
● 教材をデジタル化する意味	... 1
● 合唱の歴史をたどって	... 2
● Vol. 2 から学ぶもの	... 2
● 教材開発の視点	... 3
● <b>Concept</b>	... 4
● 教材の使い方	... 5
● Vol. 1 からのステップアップ	... 5
● わらべうた編	... 6
□ ほたるこい	... 7
□ 十五夜のお月さんな	... 9
□ ひらいたひらいた	... 11
● ワンポイント・アドバイス	... 13
● コーラス編	... 14
■ バッハによるカノン	... 15
■ さくらさくら	... 17
■ 平行オルガヌム	... 19
■ オルガヌム（オリジナル教材）	... 20
■ もみじ	... 21
● 楽典	... 23
● 音楽用語 + 参考文献	... 25
● 編集後記	... 26

## 発刊にあたって

プロジェクト顧問 木立 英行 (大阪教育大学理事)

教員は、教科の指導にあたるためには、自信の持てる指導方法を見いださなければなりません。そのためには長い実践経験と深い考察との両方が必要になります。ことに、実技を伴う教科の指導力を養うには、まず、自分にあった指導法、指導者に恵まれる必要があります。しかし、忙しい教職にある身では、そのような機会を得ることは容易ではありません。

このような事情を考え、音楽教育に関心のある方々のお役に立つことができればと、平成 21 年 5 月に DVD 版の『音楽科授業改善のためのデジタルコンテンツ【誰にもできるステップアップ教材】わらべうた編&コーラス編』Vol. 1 を発刊しました。幸いにも各方面から感想、ご意見、実践報告など寄せていただくことができ、制作に携わったもの一同、感謝致しております。

さて、この度、先の経験に自信を得て Vol. 2 を発刊することになりました。お寄せ頂いた皆様のご意見は、多いに参考にさせて頂きました。前編同様、現職の先生や関心のある方々に役立てていただきたく思っております。

皆様のご批判や提案、ご要望をいただき、より良いものにし、また、今後『器楽アンサンブル、創作』等についても刊行するつもりですが、皆様のご協力を得て、このような活動によって、時代にあった音楽指導方法を作り上げることに、大阪教育大学音楽教育講座が貢献することができればと、念願致しております。

## 教材をデジタル化する意味

プロジェクトスーパーバイザー 田中 龍三 (大阪教育大学教授)

このデジタル教材は、本学の「次世代を育てる全領域デジタル教材の展開」プロジェクトの一環として制作された教材の Vol. 2 です。

教材をデジタル化する目的はいろいろあります。Vol. 2 でも、音楽活動の基礎的な能力となる知覚・感受を学習活動の中心に据え、それに基づく音楽表現の技能を育てることを目的としています。そして、その目的を実現するための指導に工夫を加えることをイメージしてデジタル化を図りました。

デジタル教材の特性としては、教材を瞬時にピンポイントでストレスを感じさせることなく提示することや、授業スタイルに即して加工しやすいことなどが上げられます。

つまり、このデジタル教材をそのまま使うことも、子どもが音楽の仕組みを理解し、音楽表現のおもしろさを体感するという新しい授業が展開できますが、先生方が新たな授業を創造される際に、このデジタル教材を目的に応じて加工して使われることも、是非試みていただきたいと願っております。

本学音楽教育講座では、今後も地域の先生方と連携をしながら、音楽科授業の改善をめざし、さまざまなデジタル教材の開発を進めていきたいと考えております。それらが学校現場のニーズに応えられるものとなるためにも、このデジタル教材 Vol. 2 を実際に授業で使っていただき、忌憚のないご意見をお寄せ下さいますようお願いいたします。

## 合唱の歴史をたどって

藤井 修（作曲家）

合唱の歴史では、同じメロディーをユニゾン（斉唱）で歌い、遊びや労働、祈り等を行うようになった後に、掛け合いや合いの手を入れる形式に発展したと考えられています。そして同じメロディーをずらして歌うカノン（輪唱）や、多くの声部が異なるメロディーを歌いながら、一つの楽曲を構成するポリフォニー（多声音楽）が成立します。その後、永い年月を経て、一つのメロディーに和音をつけて歌うホモフォニー（和声的音楽）に発展します。

このデジタル教材は、合唱が発展してきた歴史をたどるように指導を進めることにより、無理なく自然に合唱の能力を高めることができる、という考え方に基いて構成されています。これを一つの提案として、様々なレベルでの合唱指導に役立ててください。そしてご意見、ご感想をお寄せ頂ければ、更に新たな研究開発の参考にさせていただきます。

## Vol. 2 から学ぶもの

澤田 篤子（洗足学園音楽大学教授）

「わらべうた」などの日本の音楽や「カノン」の手法、そして平行 5 度による歌唱などを用いた本教材は学校音楽教育にいろいろな示唆を与えます。

今日、わらべうたを歌う機会は確かに少なくなっていますが、それでもなお、子どもたちはわらべうたで遊んでいます。わらべうたは遊びの中で、子ども自身のもっとも歌いやすい音域と発声で歌われ、まさに日本人の歌の原点といえましょう。教育の場では、生活におけるわらべうたの有り様そのままを学ぶのみならず、さらに生活から切り離してわらべうたと向き合うことが求められます。それは単に合唱曲に編曲したものや、ピアノ伴奏を付けたものを歌うことではなく、その根本に日本人が培ってきた音楽の営みの手立てを据えることではないでしょうか。

本教材では「カノン」や別のわらべうたを合わせて歌うという方法を用いていますが、これらは日本の伝統的な音楽にも見られる手法です。たとえば雅楽には追吹（おいぶき）という、1 小節ずつ遅れて演奏する方法があり、また地歌では異なる曲と合奏する「打合せ」という方法も伝えられています。いずれも音楽をもっと複雑にして楽しみたいという日本人の欲求から生まれたもので、本教材でのわらべうたの展開と共通しています。

さらに西洋音楽について、完全 5 度や完全 4 度といういわゆる協和音程を「声を合わせる」ことの基盤に置いています。この音程は古代に中国から日本に伝わった音律法にも通じ、楽器の調弦にも用いられるなど、民族を超え誰にでも備わっている音程感覚です。

日本人がより複雑な響きを生み出し、また西洋人が和声音楽を生み出してきた過程の追体験や、普遍的な音程感覚の習得は、合唱活動を音楽の豊かな学びへと広げていくことでしょう。

また、本教材は「合唱指導」用とのことですが、そのアイディアは新学習指導要領の改善点の一つ「音楽づくり」や「創作」にも敷衍することができるのではないのでしょうか。歌って合うわらべうたを見つかったり、いろいろな方法でカノンにして楽しんだり、また本教材の趣旨からは離れますが、替え歌を作ったりなど、子ども自身でさまざまな工夫できます。

本教材が先生方の洞察と工夫、そして子どもたちの発想によって、さまざまに活用されることを祈念いたします。

## 教材開発の視点

プロジェクト代表 寺尾 正 (大阪教育大学教授)

デジタル教材開発にあたって、二つのことを意識しました。一つは、授業を受ける子どもたちがこの教材を楽しんで学べるかです。ここに含まれる教材（共通教材である『もみじ』を除く）はすべてシンプルで、区切られた短いステップを2、3度繰り返し歌えば覚えられるものばかりです。しかも、注意深く取り組みながら、ステップを重ねて練習することにより、子どもたちは小さな驚きを感じられるように工夫されています。カノンであれば、パートをずらし歌うことで、動きの中に作り出される音程により様々な響きが現れます。また、オルガナムでは完全4度、5度音程を平行に動かすことで、連続した不思議な響きに包まれます。いずれも課題をステップアップさせるごとに子どもが、歌い合う面白さと共に無理なく音程感覚を身につけることができる優れた方法です。

いま一つは、教える側、つまり扱っていただく先生方の授業展開にも配慮している点です。子どもたちに無理がない教材ということは、教える側にも「やさしい」教材と言えます。伴奏に気を取られることなく、対面して歌っている子どもたちの声を集中して聴くことが可能です。もちろん範唱、音程を聞き分ける能力など、教師が必要とするスキルについての訓練は必要ですが、講習などで容易に習得できます。ぜひ、現場の先生自らが試演し、その楽しさ、有効性を実感していただくことをお勧めします。研究グループ等を募って教材研究をさらに深めていただくことなどあれば、望外の喜びです。

特記事項として、本コンテンツの仕事の多くは、大学院生の手によるものであることを挙げておきます。嬉々として仕事を進める彼らを見るにつけ、皆で考え、アイデアを出し合う創造的な教育環境がいかに大切かを痛感いたしました。

最後になりましたが、このプロジェクトにご協力いただいた箕面市立箕面小学校、学校法人嶋田学園鶴山台国際幼稚園、大阪教育大学附属平野小学校の皆様にご心より感謝いたします。現場の先生方の協力のおかげで、子どものリアルな反応や様子を映像におさめることが実現し、本教材を一段と魅力あるものにできたと感じます。また、その他にも多くの方々から教材をよりよくするためのご助言をいただきました。この場を借りて、深く御礼申し上げます。

## Concept

---

「乱暴に歌う子どもに、どうやってアドバイスしたらいいかわからない・・・」  
「発声は工夫しているけど、どうやって曲につなげればいいんだろう・・・？」  
「もうワンステップ、子どもたちのコーラスをいいものにしたい！」

この音楽科授業改善のためのデジタルコンテンツ【誰にもできるステップアップ教材】は、そのような壁にぶつかったときに、ひとつのアドバイスとなることを目的とした教材です。音楽の専門教育を受けていなくても、ピアノが上手でなくても、子どもの歌唱の基礎力を高めることができます。また Vol.2 では Vol.1 から積み重ねてきた基礎力をベースに、さらにステップアップしていく教材も用意しました。

コーラスにおいては、「歌うこと」と同時に、「聴き合うこと」がとても大切です。本コンテンツでは、この「聴き合う力」を高めるために《わらべうた編》と《コーラス編》の2編にわけて、教材をステップアップさせていきます。《わらべうた編》では、遊びとして歌われるわらべうたをカノンの教材として用います。遊びをとおして仲間とともに歌いあうことで、自然に、無理なく合唱のためのスキル、「聴き合う力」を身につけることができます。《コーラス編》では、「聴き合う力」をベースに、カノンを発展させ、ハーモニーを作るトレーニングを取りいれました。この《わらべうた編》と《コーラス編》はともに関連しており、両編を継続的に行うことでコーラスの基礎技能が培われると考えています。Vol.2 ではその例として、小学校の共通教材である「さくらさくら」と「もみじ」を取り上げ、どのようにステップアップさせていくかを提案します。

本コンテンツは Vol.1 の続編として制作し、Vol.2 で扱う教材は Vol.1 で養った基礎力をベースに考えられています。Vol.2 からご使用いただくのは可能ですが、Vol.1 との併用をおすすめします。Vol.1 は下記の URL（大阪教育大学音楽教育講座ホームページ）より配信しておりますので、ぜひご覧ください。また、Vol.1 の DVD 版を必要とされる方はご連絡下さい。

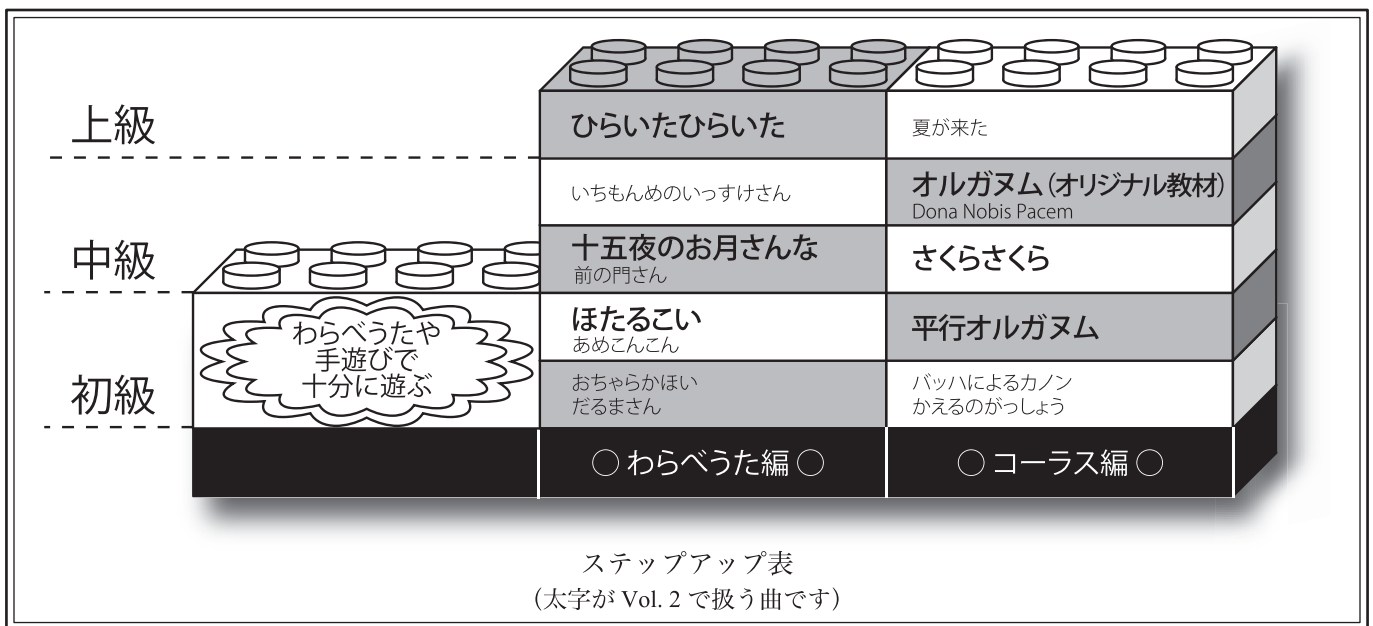
なお、ご希望に応じて、本デジタルコンテンツを使用して頂ける先生方を対象に、公開講座を行う予定です。お気軽にご相談ください。

その他、本コンテンツに対してのご意見・ご感想・ご質問などございましたら、お名前、所属、Email アドレスを添えて、下記のメールアドレス宛ご送信下さい。

Mail : [musicdc@cc.osaka-kyoiku.ac.jp](mailto:musicdc@cc.osaka-kyoiku.ac.jp)  
URL : [www.osaka-kyoiku.ac.jp/~ongaku](http://www.osaka-kyoiku.ac.jp/~ongaku)  
住所 : 〒582-8582  
大阪府柏原市旭ヶ丘 4-698-1  
電話 : 072-971-3711

大阪教育大学 音楽教育講座  
寺尾 正

## 教材の使い方



- ▼ 初級から取り組むことをおすすめします。学年・校種等にこだわることはありません。
- ▼ 先生や児童、生徒のレベルに応じて、曲や STEP を選択してください。無理をする必要はまったくありません。(例：パートを減らす、オスティナートをつけない)
- ▼ わらべうた編・コーラス編のどちらも並行して行うことで、より効果的にステップアップできます。
- ▼ 映像で演奏しているテンポは少し速い場合があります。歌う側の様子に応じて調節してください。
- ▼ Vol. 2 で取り上げている曲を扱う前に、かならず Vol. 1 をやってください。そうすると、より Vol. 2 の教材が意味のあるものとなります。
- ▼ Vol. 1、2 で紹介したすべてのわらべうたを、パートナーソングとして同時に重ねることができます。

## Vol. 1 からのステップアップ

- 《CHECK》
- ① 声の種類を使い分けられるようになろう
  - ② ハーモニーを作る楽しさを感じよう

Vol. 1 では、「カノン」を活動の中心に置きながら、「音程感覚」の育成を目指しました。Vol. 2 では、引き続き音程感覚を養いながら、さらにステップアップできるような教材を提案しています。まず、いろいろな声の出し方について、「地声」と「裏声」を中心に学んでいきます。授業においても、「きれいな声で歌わせたい」、「裏声にすると、元気がなくなってしまう」、「裏声がかうまく出せない子どもがいる」など、「地声」と「裏声」の使い方について悩まれる先生もおられるのではないのでしょうか。詳しくは、ワンポイントアドバイス (13 ページ) をお読み下さい。

さらに、Vol. 2 では、ハーモニーを作るトレーニングとして、「オルガヌム」を取り入れました。これは、西洋音楽史の中で、カノンとともに重要となる初期の音楽形式です。西洋音楽の発展の中で生まれ、工夫されたこれらの様式をコーラスのトレーニングの中に取り入れることで、より効率よくハーモニーを作る技術を身に付けることができ、歌うことがより楽しくなるでしょう。

# Volume II — Children's Songs

わらべうた編

## Manual □ ほたるこい

### Step 1

まずは全員で練習する

#### 【ユニゾン】

- ・歌いはじめの音をそろえる。
- ・休符を意識して、テンポが速くならないようにする。

☞ユニゾン:全員で同じメロディーを歌うこと(斉唱)

### Step 2

2つに分かれて歌う

#### 【4拍ずれ】

- ・歌いはじめの音に気をつける。また、後から入るパートは出だしの音の高さをよく聞いて歌い始める。

### Step 3

2つに分かれて歌う

#### 【2拍ずれ】

- ・後から入るパートは出だしの音の高さをよく聞いて歌い始める。
- ・お互いのパートをよく聴きながら、慣れるまで何回も練習する。

### Step 4

2つに分かれて歌う

#### 【1拍ずれ】

- ・入るタイミングに気をつける。
- ・お互いのパートをよく聴きながら、慣れるまで何回も練習する。
- ・**Step 3**までに比べて難しくなるので、子どものレベルに応じて扱う。

☆ この曲は聴いてもおもしろいため、聴き合う活動を取り入れると効果的です。

☆ うまくいかないときは、はじめに戻って練習しましょう。

☆ テンポを速くしたり、円になって歌うなど、色々な方法で楽しく歌うことができます。

### Level Up 1

3つに分かれて歌う

#### 【3声カノン／1拍ずれ】

- ・入るタイミングに気をつける。
- ・3声間の音が合うように意識して歌う。
- ・つられそうになるスリル感を、楽しんで歌えるようにする。

### Level Up 2

3つに分かれて歌う

#### 【3声カノン／1拍ずれ／強弱付】

- ・歌い始めは、*p*でも言葉ははっきりと言う。
- ・最初は指導者が強弱を指揮で示すとわかりやすい。
- ・*p*で、かつ音程を揃えることは非常に難しいので、特に意識して歌えるようにする。

★ うまく演奏できたら、響きが移動していくようなおもしろい効果が得られます。



# ほたるこい

東北地方のわらべうた

ほ ほ ほたるこい あっちのみ ずは に がいぞ

5  
こっちのみ ずは あ まいぞ ほ ほ ほたるこい

【4拍ずれ】

ほ ほ ほたるこい

ほ ほ

【2拍ずれ】

ほ ほ ほたるこい

ほ ほ ほたる

【1拍ずれ】

ほ ほ ほたるこい

ほ ほ ほたるこい

【3声カノン／1拍ずれ／強弱付】

ほ ほ ほたるこい あっちのみ ずは に がいぞ

ほ ほ ほたるこい あちのみ ずはに がいぞ

ほ ほ ほたるこい あちのみ ずはに がい

楽譜の続きは、《付録》を参照してください

## Manual □ 十五夜のお月さんな

### Step 1

まずは全員で練習する

#### 【メロディー（ユニゾン）】

- ・歌いはじめの音をそろえる。
- ・地声でもいいので、明るく歌う。

☞ユニゾン:全員で同じメロディーを歌うこと(斉唱)

### Step 2

2つに分かれて歌う

#### 【メロディー（カノン）】

- ・後から入るパートは、先に入るパートの音の高さに合わせることを意識して歌う。
- ・テンポが速くならないようにする。

☞カノン:同じメロディーをずらして歌うこと(輪唱)

### Step 3

新しいパートを歌う

#### 【オブリガート（ユニゾン）】

- ・高音部から始まるので、のびやかに声をだす。
- ・下行していく旋律なので、音が下がり過ぎないように注意して歌う。

☞オブリガート:メロディーを補助するもう一つのメロディー(助奏)

### Step 4

2つに分かれて歌う

#### 【メロディー（カノン）＋オブリガート（ユニゾン）】

- ・「サッサヨーイ」の「s」の子音を意識すると、よりおもしろくなる。
- ・他声部を聴きながら歌えるようになるまで練習する。
- ・いきなりオブリガートのカノンをメロディーに重ねるのが難しい場合は、メロディー（ユニゾン）にオブリガート（ユニゾン）を重ねるステップを作るなど、子どもの様子に応じて工夫してください。

### Step 5

4つに分かれて歌う

#### 【メロディー（カノン）＋オブリガート（カノン）】

- ・Step 4 までに比べて難しくなるので、子どものレベルに応じて扱う。

- ☆ この曲は「サッサヨーイ」の効果がおもしろいため、聴き合う活動を取り入れると効果的です。
- ☆ うまくいかないときは、はじめに戻って練習しましょう。
- ☆ テンポを速くしたり、円になって歌うなど、色々な方法で楽しく歌うことができます。

## Challenge !

- ★ Vol.1、Vol.2で紹介したわらべうたは、すべてパートナーソングとして同時に重ねて歌うことができます。

# 十五夜のお月さんな

九州地方のわらべうた

ゆっくり 静かに

The first system of musical notation is in 2/4 time. It consists of two staves. The upper staff is a vocal line with lyrics 'サ サ サー サ サ サー' and two circled numbers '1' and '2' above it. The lower staff is a piano accompaniment line with circled numbers '1' and '2' above it. The melody is simple and repetitive, with a final note in the lower staff ending with a fermata.

じゅうごやの おつきさんな まつのかげ

The second system of musical notation is in 2/4 time and starts with a measure number '5'. It consists of two staves. The upper staff is a vocal line with lyrics 'サ サ サ ノ サ サ サ ヨ -イ' and a circled number '5' above it. The lower staff is a piano accompaniment line. The melody continues from the first system, with a final note in the lower staff ending with a fermata.

まつから さされて ささのかげ ササ ヨーイ

## Manual □ ひらいたひらいた

### Step 1

まずは全員で練習する

#### 【メロディー（ユニゾン）】

- ・音域が広がり跳躍も多いので、最初の段階でよく練習をする。
- ・地声でもいいので、明るく歌う。

☞ユニゾン：全員で同じメロディーを歌うこと（斉唱）

### Step 2

伴奏パートを歌う

#### 【オスティナートの伴奏（ユニゾン）】

- ・テンポが速くならないようにする。
- ・言葉をはっきり歌い、言葉のリズムのおもしろさを感じましょう。

☞オスティナート：同じメロディーをくり返し歌うこと

### Step 3

2つに分かれて歌う

#### 【メロディー（ユニゾン）＋オスティナートの伴奏（ユニゾン）】

- ・テンポを合わせることを意識して歌う。

### Step 4

3つに分かれて歌う

#### 【メロディー（ユニゾン）＋オスティナートの伴奏（カノン）】

- ・他声部を聴きながら歌えるようになるまで練習する。

☞カノン：同じメロディーをずらして歌うこと（輪唱）

### Step 5

新しいパートを歌う

#### 【オブリガート（ユニゾン）】

- ・常に高音を保たなければならないため、強い声ではなく、優しく歌うように指導する。
- ・音が下がらないように意識して歌う。

☞オブリガート：メロディーを補助するもう一つのメロディー（助奏）

### Step 6

4つに分かれて歌う

#### 【メロディー（ユニゾン）

＋オスティナートの伴奏（カノン）＋オブリガート（ユニゾン）】

- ・3つの違う旋律を重ねているので、子どものレベルに応じて扱う。
- ・他声部を聴きながら歌えるようになるまで練習する。

☆ この曲は音域が広くなり、また旋律が3つも重なる曲です。子どもの様子に応じて扱ってください。

☆ 映像では少し早めのテンポで歌っています。歌いやすいテンポで取り組んでください。

☆ うまくいかないときは、はじめに戻って練習しましょう。

☆ テンポを速くしたり、円になって歌うなど、色々な方法で楽しく歌うことができます。

### Level Up

5つに分かれて歌う

#### 【メロディー（ユニゾン）

＋オスティナートの伴奏（カノン）＋オブリガート（カノン）】

- ・他声部とどのように重なり合っているのかを聴きながら、歌えるようになるまで練習する。

## Challenge !

★ Vol.1、Vol.2 で紹介したわらべうたは、すべてパートナーソングとして同時に重ねて歌うことができます。

# ひらいたひらいた

関東地方のわらべうた

(1) (2) V V

オブリガート  
ひ ら い た アー つ ぼ ん だ アー

メロディ  
ひ ら い た ひ ら い た な ん の は な が ひ ら い た

オスティナート  
ひ ら い た つ ぼ ん だ ひ ら い た つ ぼ ん だ  
ひ ら い た つ ぼ ん だ ひ ら い た つ ぼ ん

5 V

れ ん げ の は な が ひ ら い た アー

れ ん げ の は な が ひ ら い た ひ ら い た と お も つ た ら

ひ ら い た つ ぼ ん だ ひ ら い た つ ぼ ん だ  
だ ひ ら い た つ ぼ ん だ ひ ら い た つ ぼ ん

9

つ - - ぼ ん だ

い つ の ま に か つ - - ぼ ん だ

ひ ら い た つ ぼ ん だ ひ ら い た つ ぼ ん だ  
だ ひ ら い た つ ぼ ん だ ひ ら い た

# ワンポイント・アドバイス

## ● 地声 と 裏声

子どもたちは、それぞれ個性のある声を持っています。そのため、無理な歌い方をさせてしまうことなく、自分の声に合った種類の歌い方を選んで歌えるようにすることが大切です。ここではまず、2種類の声について紹介します。

### ① 地声

地声は、中音から低音域にかけて歌う時に使うと歌いやすく、普段話すときに使っている声でもあるため、子どもたちは抵抗なくその声を使うことができます。また、声に強さがあり、音量も大きく出せるため、メロディーなどを際立たせたい場合に効果が得られます。



### ② 裏声

裏声は、高い音を無理なく出すことに適しています。また、地声に比べて響きがやわらかく、音量が抑えられるため、高音域でのオブリガードなど、曲の飾りを担う部分にも適しています。

学習指導要領に記載されている、自然に無理なく歌うこと、そして響きのある歌い方で歌うこと、という内容を誤ってとらえ、子どもたちに偏った指導をしてしまうことなく、これらの2つの声をうまく使い分けて、歌うことに抵抗を与えてしまわないように工夫していくことが重要です。声の種類を学ぶことで、声の音色や変化も学ぶ機会になり、また、子どもたち自身の存在価値や役割を感じさせられることにもつながっていくのです。（浦田恵子）

## 幼稚園での取り組みについて

Vol. 1、2で扱っている教材には、幼稚園の子どもたちでも取り組めるものもあります。特に《わらべうた編》の教材は、“遊びながら音程感覚を養うこと”を目的にしています。映像ではカノンにしたり、重ねて歌ったりいろいろな歌い方をしていますが、決してこのとおりにしなければいけないことはありません。遊びをとおして、自らが歌うことや仲間と歌い合う楽しさを経験し、無理なく「聴き合う力」を育むことが大切です。

# Volume II — Chorus

コーラス編

## Manual ■ バッハによるカノン

この曲は、ヨハン・セバスチャン・バッハによって作曲されたとされるカノンです。5音からなる長調の音階によるカノンですが、この中に、コーラスの技能を育てるとも大切な要素が隠されています。上行下行形の旋律に下行上行形の旋律を加えると、全部で8声のカノンになります。はじめは複雑に聴こえるかもしれませんが、短い時間で継続して扱い、少しずつ挑戦してみてください。歌うときは、「マ」や「ラ」など自由に工夫して歌いましょう。

### Step 1、Step 2 は Vol. 1 を見て、よく練習してください

#### Step 1

上行下行形を  
まずは全員で練習する

#### 【上行下行形 ユニゾン】

- ・音が上行するときは、音程が下がりがちになるので明るく、積極的に。
- ・音が下行するときも、音程が下がりがちになるので慎重に。
- ・2つ目や4つ目の八分音符の音は短くなりがちなので、丁寧に、長さを意識して歌う。

☞ユニゾン：全員で同じメロディーを歌うこと（斉唱）

#### Step 2

4つに分かれて歌う

#### 【上行下行形 4声カノン】

- ・2つ目や4つ目の八分音符の音は、常に鳴っているドミソの響きの圧力により音が下がりがちで、不安定になる傾向があるので注意する。
- ・パート同士が同じピッチで歌い合えるように、お互いのパートをよく聴く。
- ・テンポがずれないように意識する。

### Step 3～5 は Vol. 2 で扱う、新しいステップです

#### Step 3

下行上行形を  
全員で練習する

#### 【下行上行形 ユニゾン】

- ・歌い始めるタイミングに注意する。はじめの休符を意識するとよい。
- ・2つ目や4つ目の八分音符の音は短くなりがちなので、丁寧に、長さを意識して歌う。

#### Step 4

4つに分かれて歌う

#### 【上行下行形 + 下行上行形 8声カノン】

- ・Step 2 の注意事項と同じ。

#### Step 5

上行下行形と下行上行形を  
8つに分かれて歌う

#### 【上行下行形 + 下行上行形 8声カノン】

- ・Step 2 の注意事項と同じ。

★ 半音ずつ音を上げて練習しましょう

★ うまくいかないときは、ユニゾンに戻って練習しましょう

## Level Up !

- 指名された一人が最初に歌い出し、他の人は各自好きなタイミングでハーモニーに加わる。

⇒ この方法で、お互いの声を聴き、ハーモニーの中での自分の声を意識することができます。



# バッハによるカノン

J.S.Bach

The image shows a musical score for a canon by J.S. Bach, presented in two staves. The top staff begins with a treble clef, a common time signature (C), and a repeat sign. The first measure contains a whole note with a circled smiley face above it, labeled with a circled 1 (①). The second measure contains a half note, labeled with a circled 2 (②). The third measure contains a dotted half note, labeled with a circled 3 (③). The fourth measure contains a whole note, labeled with a circled 4 (④). The bottom staff begins with a treble clef, a common time signature (C), and a repeat sign. The first measure contains a whole rest, labeled with a circled 5 (⑤). The second measure contains a whole note with a circled smiley face above it, labeled with a circled 6 (⑥). The third measure contains a half note, labeled with a circled 7 (⑦). The fourth measure contains a dotted half note, labeled with a circled 8 (⑧). The score concludes with a double bar line.

この楽譜は、カルドシュ・パール著『合唱の育成・合唱の響き』p.92より抜粋しました。

## Manual ■ さくらさくら

「さくらさくら」は、我が国に伝わる最も有名な日本古謡の一つです。旋律の流れがとても典雅で、合唱や楽器のための編曲など、さまざまなスタイルで演奏されています。今回はこの旋律をずらしてカノンにしました。なじみのある旋律を、ずらして歌うことで生じる2度の不協和音の響きは、不思議な世界へといざなわれるようです。2声、4声など、パート数を増やすなどして、トーンクラスターと呼ばれる独特の音の響きを楽しんでください。

### Step 1

まずは全員で練習する

#### 【ユニゾン】

- ・出だしの音（ラ音）から、となりの音（シ音）に移るときにしっかり上がる。次のステップで旋律をずらすと他のパートの音につられて音が下がりやすくなるので、ここで十分に練習しておきましょう。
- ・日本古謡ならではの雰囲気を味わいながら歌いましょう。

☞ユニゾン：全員で同じメロディーを歌うこと（斉唱）

### Step 2

2つに分かれて歌う

#### 【2声カノン】

- ・不協和な音の響きを感じながら歌う。ラ音を歌うときは上がらないように保って、シ音を歌うときはしっかりと上がるよう意識する。
- ・テンポがずれないように、お互いの音を聴き合いながら歌う。

### Step 3

4つに分かれて歌う

#### 【4声カノン】

- ・パートが4つになって音の響きが複雑になるので、他のパートに惑わされないうように十分に練習する。
- ・トーンクラスターを感じながら歌う。

☞用語の解説は、音楽用語のページを参照してください

- ★ うまくいかないときは、ユニゾンに戻って練習しましょう
- ★ レガート（なめらか）に歌うことを心がけましょう。レガートに歌うことで、より一層情景が思い浮かぶような表現ができます。

# さくらさくら

日本古謡

さくら さくら やよいの そらーは

5  
み わ た す か ぎーり か す み か

8  
く もーか に お い ぞ い ずーる

11  
い ざ や い ざ や み に ゆーか ん

さくら さくら  
やよいの空は  
見渡すかぎり  
かすみか雲か  
匂いぞ出ずる  
いざや いざや  
見にゆかん

さくら さくら  
野山も里も  
見渡すかぎり  
かすみか雲か  
朝日に匂う  
さくら さくら  
花ざかり

左の歌詞は、昭和 16 年に改められたもので現在の音楽の教科書では、こちらが主に扱われています。この歌詞を 1 番、古い歌詞を 2 番、として歌われる場合もあります。映像では、古くからあった歌詞で歌っています。

4 声の楽譜は、《付録》を参照してください

## Manual ■ 平行オルガヌム

オルガヌムとは、中世ヨーロッパで流行した初期多声音楽です。初期のオルガヌムはグレゴリア聖歌等の旋律に完全4度、完全5度、完全8度の純正律で平行して歌われる平行オルガヌムでしたが（本来即興で歌われていたと言われている）、やがて、複雑な進行をする自由オルガヌムに発展していきます。自由オルガヌムでは、反行、斜行、声部の交差などもみられます。そしてその後、オルガヌムはより複雑な対位法音楽へと発展していきます。

今回取り上げる平行オルガヌムは、オルガヌムの歴史の中でも最も初期のものです。2音間の音の幅を一定に保ちながら、音高を動かしていくことで、合唱活動に必要な能力である音程感覚を養うことができると考えられます。まずは、平行オルガヌムで基礎的な練習をしてから、様々な要素の入ったオルガヌム（オリジナル教材）を歌ってみてください。

☞用語の解説は、楽典・音楽用語のページを参照してください

完全5度  
エチュード 1

完全5度  
エチュード 2

\*映像ではレとラの完全5度で演奏しています。（ナレーションでは移動ドで解説しています。）

### Step 1

音を合わせる

#### 【音を合わせる】

- ・音を重ねた時に生まれる2音の間隔を意識する。
- ・音を少しのぼして、完全5度の響きが安定するように聴き合って歌う。

### Step 2

合わせた音を動かす

#### 【合わせた音を動かす】

- ・2音の間隔を正確に平行して動かすように意識する。
- ・上行して次の音に移るときは、ピッチが低くなりがちなので注意して歌う。

- ★ 半音ずつ音を上げて練習しましょう
- ★ 完全4度、長3度など、2音の間隔を変えて練習しましょう
- ★ 上行して下行するなど、違ったオルガヌムを創作して練習しましょう

## Manual ■ オルガヌム (オリジナル教材)

### Step 1

**A** 上声部

【音が下がらないように正しく歌う】

- ・ 1小節目 3拍目の音 [シb] が下がらないようにしっかり上がる。
- ・ 3、4小節目 [ファ] の音が、のぼしている間に下がらないようにする。

### Step 2

**A** 下声部

【遅れないように正しく歌う】

- ・ 3小節目の旋律を歌うときに遅れないように出る。
- ・ 1、2小節目 [ファ] の音が、のぼしている間に下がらないようにする。

### Step 3

**A** 両声部

【お互いのパートの音を聴きながら歌う】

- ・ 上声部から下声部への旋律の受け渡しを感じながら歌う。

### Step 4

**B** 両声部

【音の幅の変化を感じながら歌おう】

- ・ 上声部と下声部の音の幅が変化するのを感じながら歌う。

### Step 5

**C** 上声部

【正しく歌う】

- ・ 7、8、9小節目の1拍目の音が下がらないように歌う。
- ・ 9小節目で終わってしまわずに11小節の終わりまで旋律が流れるように意識する。

### Step 6

**C** 下声部

【正しく歌う】

- ・ 7、8、9小節目の1拍目の音が下がらないように歌う。
- ・ 11小節目 [ミ] の音が下がらないように注意する。

### Step 7

**C** 両声部

【お互いのパートの音を聴きながら歌う】

- ・ 上声部と下声部が同じ音の幅で動けるように聴きあって歌う。

### Step 8

**D** 両声部

【音の幅の変化を感じながら歌おう】

- ・ **A** の部分との違いに注意して歌う。

### Step 9

最初から終わりまで

【音を合わせて歌おう】

- ・ お互いの音を聴きあって、音とタイミングを合わせて歌う。

- ★ 平行オルガヌムを十分にやってから、オリジナル教材を扱きましょう。
- ★ うまくいかないときは、**A**～**D** にわけて練習しましょう。
- ★ オルガヌムによってつくられる音の響きをよく聴きましょう。

## Manual ■ もみじ

「もみじ」は小学校の教科書に掲載されている合唱曲です。前半部分は2声による1小節遅れのカノンになっています。後半部分は、カノンから発展して和声的な響きによる合唱になっています。つまり、この曲は合唱を進めていく上で重要となるステップが盛り込まれているのです。前半部分と後半部分の特徴をよくつかんで練習するようにしましょう。また、歌詞の内容から情景を思い浮かべながら豊かに歌えるようにしましょう。

### Step 1

前半 上声部

【のびのび歌おう】

- ・旋律の動きを感じながらのびやかに歌う。

### Step 2

前半 下声部

【メロディーとの違いを意識して歌おう】

- ・旋律の動きを感じながらのびやかに歌う。
- ・最後2小節の上声部と違う箇所注意到意して歌う。

### Step 3

前半 両声部

【カノンを意識して歌おう】

- ・言葉をはっきり発音する。
- ・最後の「ファ」で同じ音になるよう意識して歌う。

### Step 4

後半 上声部

【広がりをもって豊かに歌おう】

- ・特に前半部分は広がりを感じて歌う。
- ・最後はピッチが下がらないように丁寧に歌う。

### Step 5

後半 下声部

【広がりをもって豊かに歌おう】

- ・特に後半部分は旋律の動きを大切に歌う。
- ・最後はピッチが下がらないように丁寧に歌う。

### Step 6

後半 両声部

【声部の役割を意識して歌おう】

- ・上下のメロディーを重ねることによって生まれるハーモニーを意識して歌う。

### Step 7

1番を通して

【パートどうしの関わりを意識してのびやかに歌おう】

- ・パートの役割と関わりを意識してのびのびと声を出して歌う。

- ★ 歌詞の内容から情景を思い浮かべて歌いましょう。
- ★ うまくいかないときは前半と後半にわけて練習しましょう。
- ★ ピアノの伴奏をつける前に、歌だけでハーモニーをよく聴く練習をしましょう。
- ★ レガート（なめらか）に歌うことを心がけましょう。レガートに歌うことで、より一層情景が思い浮かぶような表現ができます。

# もみじ

文部省唱歌  
作詞 高野辰之  
作曲 岡野貞一  
編曲 中野義見

♩ = 92

1.あきのゆがひれに てりーやまくもみーじ  
2.たにのながひれに ちりーうくもみーじ

1.あきのゆがひれに てりーやまく  
2.たにのながひれに ちりーうく

5

こな いも うす ら い れ も て か ずーあ る な か に て  
こ な いも うす ら い れ も て か ずーあ る な か に て

も みーじ こな いも うす ら い れ も て か ずーあ る な か に て  
も みーじ こな いも うす ら い れ も て か ずーあ る な か に て

9

ま つを い る ど る の か い えーで やー つ た は に  
ま あ か や き ら い ど る の か い えーで やー つ た は に

ま あ か や き ら い ど る の か い えーで やー つ た は に  
ま あ か や き ら い ど る の か い えーで やー つ た は に

13

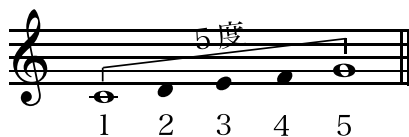
や まの ふ も と の も す そーも よ う き  
や み ずの う え に も す お るーに よ し う き

や み ずの う え に も す お るーに よ し う き

この楽譜は、教育芸術社『小学生の音楽 4』から抜粋しました。

# 楽典

■ 音程 2つの音高のへだたり(距離)を音程といい、数字と度であらわします。



同じ度数でも、2つの音に含まれる半音の数によって響きは異なり、それぞれ長・短・完全・増・減と呼ばれる種類に分けられます。

完全1度					
短2度			長2度		
短3度			長3度		
完全4度			増4度		
減5度			完全5度		
短6度			長6度		
短7度			長7度		
完全8度					



音程を構成する 2 つの音が、よく調和して響くものを「協和音程」といい、濁った響きに聞こえる音程を「不協和音程」といいます。また、「協和音程」は調和の度合いによって、さらに「完全協和音程」と「不完全協和音程」に分けられます。

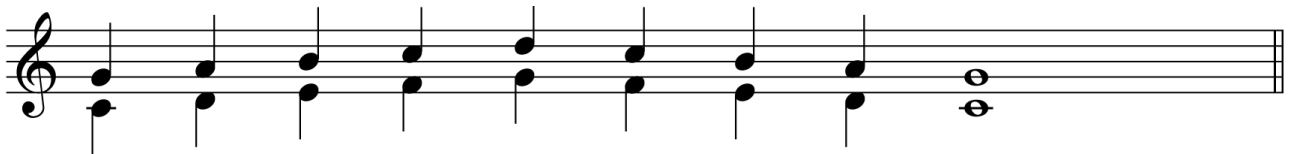
【協和音程】 … [完全協和音程] 完全 1, 4, 5, 8 度 / [不完全協和音程] 長短 3, 6 度  
【不協和音程】 … 長短 2, 7 度、増 4 度、減 5 度

## ■ 平行と反行

### 平行

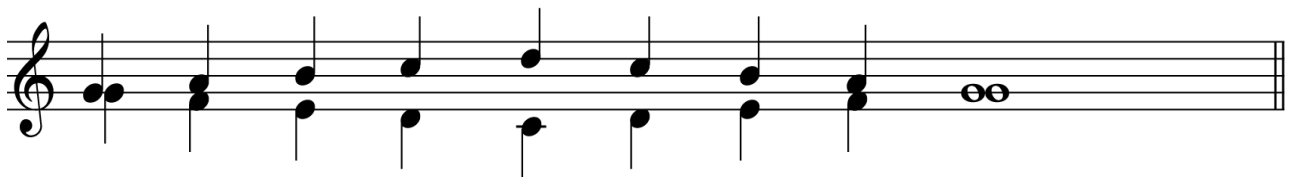
2 つの声部がたがいに同じ方向に動くことをいいます。

また、常に同じ音程間隔を保ちながら進行する場合も平行といい、以下のように常に 5 度音程で進行することを平行 5 度、あるいは連続 5 度といいます。



### 反行

2 つの声部がたがいに反対の方向に動くことをいいます。



# 音楽用語

- ユニゾン： 同度の音、あるいは同度の旋律を1声部あるいは数声部と一緒に演奏すること。しかし、女声と男声のように実音がオクターヴ離れているような場合にもいう。合唱の練習ではこの同度の練習は基礎的に大切である。より正確な同度の音高を必要とするのはもちろん、各音の音色の統一がなければ、人声の美しい和声は得られない。
- カノン： 厳格な模倣様式による多声楽曲の形式および技法。ある1声部の旋律を他の声部が忠実に模倣し、共に進行していくもの。2声カノン、3声カノンや2重カノン、同度カノン、2度カノン・・・など、声部の数や音程関係など様々な見地から分類されている。
- ピッチ： 音高（音の高さ）
- オスティナート： ある一定の音型を、楽曲全体を通じて、あるいはまとまった楽節全体を通じて、同一声部で、同一音高で、たえずくり返すことをいう。オスティナートは、しばしばバスにあらわれ、それはとくに〈basso ostinato〉〈ground〉と呼ばれる。しかし他の声部に現れることもある。
- オブリガート： 助奏。とくに、ひとつの歌声と協奏する声部のことであり、独唱（奏）に加えて演奏される伴奏以外のパートを指す。もとは、楽曲に不可欠で省略できない声部のことであり、アド・リビトゥム（ad lib.）の対語である。
- 不協和音程： 2音が協和しない音程。振動数比が複雑で、同時に鳴ると濁った響きを生む。
- トーンクラスター： 2度以内の音程で密集した音の塊のこと。調的な機能を持っていない点で、和音とは区別される。20世紀後半におけるもっとも重要な技法のひとつ。
- オルガナム： 9世紀から13世紀のヨーロッパで行われた合唱の技法であり、初期の多声楽曲のこと。ひとつの旋律に対し、常に4度・5度音程をなす声部を加えて歌うもの。初期は2声の合唱であったが、発展するにつれて声部も増え、1度・4度・5度・8度の完全音程を中心に、3度・6度なども使用された。平行オルガナム、反行オルガナム、自由オルガナムなどがある。

## [出典]

- ・目黒惇編(1983)『新訂合唱事典』音楽之友社
- ・浅香淳編(1991)『新訂標準音楽辞典』音楽之友社
- ・柴田南雄、遠山一行総監修(1996)『ニューグローブ世界音楽大事典』講談社
- ・金澤正剛監修(2004)『新編音楽小辞典』音楽之友社
- ・小西友七、南出康世編集主幹(2006)『ジーニアス英和辞典』第4版 大修館書店

# 参考文献

- ・フォライ・カタリン、セーニ・エルジェーベト共著(1975)『コダーイ・システムとは何か』  
羽仁協子、谷本一之、中川弘一郎共訳 全音楽譜出版社
- ・カルドシュ・パール(1994)『合唱の育成・合唱の響き』  
羽仁協子監修、菅原恵利訳 全音楽譜出版社

# 編集後記

今回も Vol. 1 に引き続いてわらべうた編とコーラス編でこの教材を制作しました。今回はなかなか高度なレベルの曲・内容のものが入っているので、本当に少しずつ少しずつ取り入れていってほしいと思います。Vol. 2 の内容が実践できるとかなりよい感じに歌えるのではないのでしょうか。しかし何よりも、歌を歌うのに大切なのは「歌って楽しい」という感覚だと思うので、歌を楽しむ気持ちを忘れずに歌ってほしいと思います。私ももっと歌を楽しめるようにこれからも勉強していきたいと思っています。(青山)

ついにできました「わらべうた編 & コーラス編 Vol. 2」！最初これを作り出したとき、本当にデジタル教材なんて作ることができるのか ... と思ったものですが、今回は第2弾、しかも内容がさらにボリュームアップということで、やればできるのですね。でも、この教材に含まれている曲をどれだけ現場で使っていたか、またはこれが使えるような教材なのかどうか!? については、これからも調査していく必要があると思います。むしろ、学校教育現場で使われてこそそのデジタル教材ですよね。私も教師の卵ですので、どんどん実践していくつもりです。とにかくやってみる！それが肝心ですね。(竹下)

音楽のスゴさってなんだろうなあ、と考えることがあります。最近思うのは、音楽にふれていくなかで、いろいろな感情が芽生えることがスゴいなあとということ。この Vol. 2 のなかにもたくさんいろいろな感情がでてくると思います。難しくできないから“くやしい”、できたときは“うれしい”、できたとき、なんだかよくわからないけど“きもちいい”などなど、挙げればキリがないです。そしてなにより、その感情を簡単にトモダチと共有できるのがこの教材のいいところ。さらにこの Vol. 2 は難しい課題を意識しすぎず、トモダチと一緒に乗り越えて新たな感情を共有していける教材になったと思います。(米谷)

簡単はずなのに難しい！というのはステップアップのひとつの仕掛けではないでしょうか。私たちも Vol.1 のときから実際に歌ってみましたが、「かえるのがっしょう」にしたって... これがなかなか難しい。このような教材が実はとっても良い訓練になる、ということが改めて体感できた瞬間でした。しかし！そんなに難しく考えて歌うものではありません。まずは、音を楽しむこと。Vol. 2 でも、楽譜を音にしたとき、想像以上の響きを発見することができました。遊べる音楽の教材から、できるだけ多くの人に新しい世界を発見してもらえよう、これからも実践あるのみです。(山口)

監督 寺尾 正  
 出演 音楽教育専攻大学院生によるコーラス  
 青山稚佳子 小野坂緑 木下紗也子 佐々山茜 竹下裕来 田代若菜 平野萌子 福田知里  
 古家未希 洞孔美子 堀内友里絵 米谷優 松生純歩 宮下暁子 村上久里子 山口聖代

*Ensemble Daffodil*  
 共同研究者 藤井 修 (作曲家) 浦田 恵子 (小学校教員) 澤田 篤子 (洗足学園音楽大学教授)  
 スタッフ 青山 稚佳子 (AD) 竹下 裕来 (AD) 米谷 優 (技術) 山口 聖代 (作曲)  
 日笠 みどり (幼児教育)

撮影・編集 佐藤 洋 (Midwood Pictures)  
 撮影補助 神津 裕士 太田 幸佑 小中 公平 坪倉 賢仁 福井 謙太  
 録音 OKU Recording Lab  
 協力 箕面市立箕面小学校  
 学校法人嶋田学園 鶴山台国際幼稚園  
 大阪教育大学附属平野小学校

プロジェクトスーパーバイザー 田中 龍三  
 プロジェクト代表 寺尾 正  
 プロジェクト顧問 木立 英行

制作 大阪教育大学音楽教育講座